

Newsletter

島根県グローバル人材育成支援事業実施協議会

内容

副知事表敬
(P1)

令和4年度派遣留学生の
留学報告
(P2~6)

コミュニティ活動
セミナー報告
(P7)

島根県グローバル人材育
成支援事業について
(P8)

島根県グローバル人材育成支援
事業実施協議会事務局

電話番号：0852-32-9772

FAX: 0852-32-6481

メール：tobitate_shimane@office.shimane-u.ac.jp

所在地：〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

教育学部1階

(島根大学グローバル化推進本部国際センター)

HP: <https://www.tobitate-shimane.jp/>



副知事表敬

2022年12月19日(月)、第7期派遣留学生2名(写真左:島根大学 松山祥大さん、写真右:島根県立大学 遠藤圭記さん)が各々約1カ月の留学を終え、副知事を表敬訪問し、留学の成果を報告しました。

活動報告にあたり、留学生2名はそれぞれ作成した資料を用いてプレゼンテーションを行い、この留学で学んだことや、今後どのように島根県に貢献していきたいか等、強い思いを語りました。副知事より、「今回の経験や学んだ事は一過性のものにするのではなく、将来にしっかり役立ててほしい」と、今後の留学生2名の活躍に期待を込めて激励のお言葉を頂きました。

派遣留学生は島根県でグローバルに活躍する事を再認識する機会となり、4月には県内就職、進学と、それぞれ新たな進路に進みます。

また、次期第8期生として2名派遣予定であり、今春出発予定です。



留学の経験を語る派遣留学生2名
※当日はマスク着用の上実施

令和4年度派遣留学生の留学報告

留学期間：2022年11月～12月

留学先：タイ王国，バンコク

受け入れ機関名：島根・ビジネスサポート・オフィス

留学目的：「島根県産製品のASEAN諸国への販路拡大に向けた支援スキームの創出～タイでの支援事例からの考察～」

島根県立大学 4年

遠藤 圭記さん

主な活動内容

まず私の留学の目的は、島根県を代表する加工食品「日本酒」と「水産加工物」のタイへの輸出を促進させる効果的な施策を明らかにすることにありました。そこで、タイ・バンコクに設置している島根県の海外ビジネス支援拠点「島根・ビジネスサポート・オフィス」にて主にインターンシップを行いました。また、調査対象品目のひとつを日本酒に絞ったことから、バンコクに拠点を置く日本酒類の専門商社「SCS Trading Co.,Ltd」でも短期間インターンシップを行いました。主な活動としては、同オフィスの職員の方の協力のもと島根県庁や島根県内企業を含めた複数社へのヒアリング調査が挙げられます。また、現地小売店で上記2品目に関する市場調査なども行いました。更に、SCS Tradingでは日本酒関連の勉強会や外部倉庫見学への参加、営業同行等を行いました。

第一に、ヒアリング調査および市場調査に関する活動については、ヒアリング調査を、島根県内企業2社（酒造会社・水産加工会社）、現地企業2社（日系飲食サービス会社、日系食品商社）に対して行いました。質問としては、日本酒もしくは水産加工物におけるタイ市場参入のポテンシャル、輸出もしくは輸入事業の加速化を阻んでいる障壁等について話をお聞きしました。市場調査では、まず初めにタイ人の台所を把握するためにプラカノン市場やオートコー市場といったタイ人に広く親しまれるマーケットを調査しました。次に、調査品目である日本酒及び水産加工物が取り扱われているであろう大型複合施設に出店するサイアム高島屋、NIPPON MARKET等の販売商品を調査し、ターゲット層や価格帯などを分析しました。

第二に、SCS Tradingでのインターンシップ活動について取り上げます。まず、日本酒関連の勉強会については、東北地方に拠点を置く蔵元の社長による自社製品の紹介（使用言語：英語）と、その試飲会にSCS Tradingの社長や日本人お



インターンシップ初日：島根・ビジネス・サポートオフィス（バンコク）でのインターンシップ初日の写真になります。同オフィスの業務委託先であるアジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社のバンコク事務所にて、初日ということで緊張しながらも職員の方のご厚意で撮っていただいた1枚です。



この写真は、バンコク市内でもよく見かける日系スーパー「Max Valu」の売り場になります。Max Valuはかなり現地ヘローカライズされており、タイ人の食卓に合わせた品揃えが特徴的でした。その中で、アルコール飲料においては写真のとおりビールの品揃えが豊富で、特にタイビールの人気三大銘柄「Singha」「Chang」「LEO」は売り場スペースが広くタイ人の嗜好がうかがえました。ただ、タイでは法律によりお酒の販売・提供は11:00-14:00、17:00-24:00のみと制限があり、その場で購入の際に注意が必要でした。

よびタイ人スタッフの皆さんと一緒に参加しました。また、営業同行では日本人の営業担当者様に同行し、バンコク都内のレストランやホテル等に赴いて営業先の提供料理と日本酒のペアリングの良さを売りにした営業スタイル（使用言語：英語）を間近で見学しました。

留学中に出てきた課題

まず、直面した課題として、ヒアリング調査に伴う「現地企業の選定及びアポ取り」その後の「ヒアリング時の進め方」が挙げられます。ヒアリングする企業の選定については、人脈も無く右も左も分からない異国の地でどのような現地企業にアポを取れば良いか最初に困惑しました。そこで、まず調査品目を日本酒と水産加工物に絞り、その後調査品目に関連しつつヒアリング承諾の可能性も高い現地企業をインターンシップ先の職員にお聞きしました。その後、職員にアポ取りをお願いするため各先方毎の質問表を作成しました。そして、次にヒアリング時の進め方に対しては、送付した質問項目について、事前に2、3度職員に確認と助言をいただき修正を重ねるとともに、ヒアリング後にはフィードバックを伺いに行き次回に向けた改善作業に取り組みました。

成果，感想

島根県産加工食品のタイへの輸出促進を果たすうえで、輸出企業による「現地訪問」が強く求められることが分かりました。留学以前は、輸出を阻む主な障壁は輸出支援を行う様々なアクターが「チームしまね」として役割の分類化を果たさきれていないことや、取引開始までの支援スキームが未整備であることに起因すると考えていました。しかし上記の活動から、輸出を含む海外進出の促進に向けて最も求められることは主役である企業による本気度の向上であり、それが最も表れる取組みとして現地に赴くことが挙げられると導き出しました。

また、タイ・バンコクでの輸出を検討するうえで2つの事業展開が考えられることも分かりました。一つは、日本食に対する本物志向が強い富裕層を顧客ターゲットとする既存製品による輸出展開、もう一つは、中間所得者層をターゲ



三大寺院「ワット・ポー」とその周辺：バンコク三大寺院のひとつである「ワット・ポー（涅槃仏寺院）」の近くで撮った1枚になります。ワット・ポーは、全長46m・高さ15mにもなる涅槃（ねはん）仏と、タイ古式マッサージの総本山で有名な王室寺院です。有名な観光地であることから、その周辺はタクシーが数多く停車しており、日本では馴染みのない三輪タクシー「トゥクトゥク」もここではよく見かけられました。



バンコク都内の街並み：タイで最も高い展望台である「マハナコーン・スカイウォーク」から撮ったバンコク都内の街並みになります。同展望台は、バンコク都内にあるキングパワー・マハナコーンビルの最上階78階にあり、地上318mの高さに位置します。そして、上から街並み全体を眺めることで、「バンコクの都市化」ということを以前よりもはっきりと認識できました。

ットとする徹底的なローカライズによる輸出展開になります。そして、上記2点を検討するうえでも現地に赴き、タイ人の所得分布や嗜好を肌で感じ取る必要があると考えます。

1か月間の留学を終え、最も学んだことは「未知の領域に対しても果敢に挑戦する」ことの重要性です。留学前は、タイ・バンコクという日本とは気候や食事、言語、文化などが全く違う異国の地で1か月間生活することに不安もありました。ですが、挑戦したからこそ以前の自分よりも確実に成長することができました。実際に、未知の領域に飛び込むことで慣れないことも多々ありましたが、そこに立ち向かっていくからこそ必ず成長が待っていることは間違いないと確信しました。そのため就職後においても、国内外を問わず未知の領域にも果敢に足を踏み入れ、グローバルな観点からお客様をサポートできる希少価値の高い人材となれるよう精進していきます。

留学期間：2022年11月～12月

留学先：アメリカ合衆国、ヴァージニア州 リッチモンド

受け入れ機関名：Virginia Commonwealth University

留学目的：「国外での知的好奇心を育てる教育と安定した食に対するグローバルな市場の価値観の理解」

主な活動内容

今回の留学の目的は、①知的好奇心を育てる教育について学ぶこと、また、②安全な食料資源の安定供給について国外の学生の価値観を学び、ビジネスと研究において共同できる仲間を得ることでした。そこで留学先大学（VCU）の学生に自らの知的好奇心が現在の専攻や将来像にどのように影響していると感じるかインタビュー調査を実施しました。さらに、現地の学校を訪問し、先生方から子供の知的好奇心を育てるために学校でどのような取り組みがあり、教師はどのような教育観を持っているかを調査しました。留学先でのインタビュー調査や学生交流、地域のスーパーマーケット訪問を通して、食に関する国外の人々の考え方、価値観について学びました。

留学先のVirginia Commonwealth University(VCU)は、ヴァージニア州のリッチモンドという街にあるパブリックスクールです。アメリカ留学期間の約一ヶ月、VCUでいくつかの授業に参加しました。ほとんどの授業で学生が主体となってグループディスカッションが行われました。授業やイベントなどを通してVCUの学生たちと仲良くなって交流する機会ができたため、たくさんの学生にインタビュー調査をすることができました。また、授業で日本の教育についてアメリカの学生にプレゼンテーションを行い、日本とアメリカの教育の違いについてディスカッションを行うことができました。平日は、毎日授業があったため大学に通っていましたが、週末などの大学が休みの日には、VCUの学生や現地に住む日本人の方々と、ピクニックやショッピング、リッチモンドの街を観光、ホストファミリーの家へホームステイに行くことができ、授業外でもたくさんの人にインタビュー調査を行うことができました。現地の学校へ訪問する機会もあり、ここでは小、中、高の生徒達がどのような教育を受けているのか、先生たちはどのような指導を行っているのかを観察し、どのような教育観を持っているのかインタビューすることができました。

留学計画の二つ目のテーマである安全な食料資源の安定供給についても、現地にてインタビュー、食料品店、レストラン訪問によって調査しました。食料品店では、どのような食品が並べられているのか、海の資源である魚や甲殻類、イカやタコなどは、アメリカではどのように考えられているのかを調査しました。



VCUでの授業の写真:日本の教育に関する発表をしました。（発表者が松山さん）



紅葉の木の写真:週末に行われるファーマーズマーケットに行った時の写真です。マーケットをVCU学生が案内してくれて、一緒に行動しました。マーケットの近くにとっても大きくて綺麗なもみじの木があったので、VCU学生たちと写真を撮りました。

留学中に出てきた課題

授業でのグループディスカッションでは、自分の意見を持つこと、それらを伝えること、相手の意見を聞いて理解すること、またディスカッションのテーマに関する知識などが必要だと感じました。これらを英語で行うことが大きな課題でした。この課題については、日本で大学入学後から英語の勉強をしてきたことや、フレンドリーなアメリカの学生たちのおかげで、すぐに対応することができました。言いたいことがうまく伝わらなかった時には、どのように伝えればよかったのか考え、分からないことがあれば聞くこと、自分で調べることが大事だと思いました。せっかくアメリカまで来て、とてもいい環境に恵まれているのに、話すことや質問すること、間違うことを恐れて躊躇するのはもったいないと考えていました。この1カ月間米国に滞在して感じたことは、異文化社会の中では、自分の考えを素直に表現する能力の育成が必要であり、そのためには、さまざまな経験値が必要ではないか、と考えるに至りました。島根県の外国人居住者は年々増加していると聞いていますが、多くの外国人が居住する環境となり多様な考え方の人が共生する社会作りをする上で、互いに意見を言い合える場を作る必要があるのではないかと考えています。これまでも、学内の留学生と交流を行ってきましたが、そのような場を更に広げていく必要があると、今回の留学を通じて強く感じました。



ホストファミリーとの写真:お子さんが5人いるホストファミリーのうちにきました。ホームステイはしていませんが、一緒にご飯を食べました。このあと、子供たちが歌を歌ってくれました。

成果，感想

私は今回のアメリカ留学で、国外での知的好奇心を育てる教育について学んできました。これまで私が日本で受けてきた教育と比較して考えると、たくさんの違いがあるように感じました。私はこれらの教育の違いによって、知的好奇心を育てるための環境に違いが出ると思いました。そして、知的好奇心を大きく育てることができるか否かは、まわりの

環境が影響していると考えました。アメリカの学校には、意欲的な生徒たちが参加できるクラスや、学年関係なく近い歳の生徒たちが同じ授業をとることができ対等にディスカッションすることができるクラス、授業時間の全てを先生が講義して生徒が板書するという様なスタイルの授業ではなく、学生主体となったディスカッションによって授業が進むクラスがあり、私が日本で経験したことがないような授業がたくさんありました。このような授業の中で、生徒たちは各々考えを巡らせながらディスカッションを行い、事前に調べてきた情報などを用いながら自分の考えを話していました。中学や高校の頃からこのような授業を行うアメリカの学生は、調べる習慣や自分の意見を伝える習慣が身についていると感じました。VCUの学生に大学進学を決めた理由や将来の選択についてインタビューをした際に、多くの学生が大学進学は将来にできる仕事の幅を増やすために入ったと答えました。他の回答として、VCUに入学したのはヴァージニアに故郷があり、大学が近いためという答えや、学びたいことがVCUにあるため、VCU周辺の街の雰囲気が好きだからといった回答もありました。



大勢でのセルフィー:リッチモンドの街の大学周辺にあるアートギャラリーをVCUの学生たちとまわりました。

こういったインタビュー調査を通して、アメリカの大学の授業料についてinstateとout of stateという制度があること知りました。また、アメリカの大学の専攻の多さを実感しました。大学のある州にもともと住んでいる人は、他の州からその大学に入るために来た人よりも安い授業料で済むため、ただでさえ高いアメリカの大学授業料をすこしでも抑えようとしている人の割合が多いと感じました。

VCUの学生や、他の現地の学校の生徒にインタビュー調査をしてみて、どの学生も勉強に対して高い意識を持ちながら学生生活をとても楽しんでいました。それができるのは、周りの環境や各自の努力の積み重ねによってでていることに気がきました。自らの好きなものや興味あるものをみつけるための環境が、学校や家、街の施設などの身近に存在することが知的好奇心を育てるために良いと思いました。

アメリカではveganやvegetarian向けの商品がある飲食店や食料品店が日本よりも多くあったり、スーパーでオーガニック食品が並んでいるところが多くありました。その中で、アメリカでの食に対する価値観や多様性について考えることができ、新しい価値観を得ることができました。またアメリカは、マイノリティの方が日本よりも生きやすい社会であることを実感し、多様性を認めていくようになってきている現代を考える上で、こういった価値観や考え方を軽視してはならず、地域が多様化する中で、多様性を認め包摂的な社会が島根でも実現されるべきであると痛感しました。

大学在学中にもっと長い期間での留学をしたいと思っていましたが、コロナの影響もあり留学自体が実現できずにはなりました。そのような中で実際に留学に行くチャンスくれた皆様、費用面での支援をいただいた皆様には本当に感謝しています。

実際に留学に行くことで得られた力や新しい考え、経験は私の中でとても重要なものになりました。1か月間という期間でしたが、記憶に深く残るような貴重な経験を毎日することができて本当に良かったです。

今後私が島根県で海外展開を行う企業に就職した時には、今回の留学経験を存分に活かしたいと思いました。



ドレスの写真:帰国の数日前に日本人学生のために、VCU学生がインターナショナルプロムを開催してくれました。皆綺麗な格好で参加し、ダンスパーティーをしました。

第7期派遣留学生の留学スケジュール

年度	2023年度											
月	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
留学スケジュール		募集	審査 オリエンテーション		留学	副知事表敬						
コミュニティ活動				第1回セミナー	第2回セミナー	第3回セミナー		第4回セミナー	交流会			海外オンライン研修

コミュニティ活動報告



・2022年10月 第1回セミナー

島根大学からアメリカに1年間留学し、卒業後、県内企業（本事業支援企業）に就職を果たした石川さんを招き、留学が現在の仕事にどのように活かされているかを伺いました。今回は第一回目のセミナーということで、コミュニティの学生と支援企業・経済団体との交流会も併せて行いました。今回のセミナーには学生20人、支援企業・経済団体10名が参加しました。

・2022年11月 第2回セミナー

カンボジアの地域課題に取り組む日本のNGOであるSALASUSU現地駐在員の近藤さんから、現地の課題や課題にどのように取り組んでいるのか、話を伺いました。学生にとって海外でインターンのインターン活動についてのイメージを形成するための機会となりました。参加人数は10名でした。



・2022年12月 第3回セミナー

雲南市で地域創生を行っている（一社）UMIの山下さんから、県外出身者の山下さんが、雲南市の地域おこし協力隊を経て地域活性化への取り組みを行う企業を設立した経緯や、同社の地域社会活性化への取り組みなどについて講演頂きました。6名が参加しました。

今後の予定

・2023年2月4日 第4回セミナー

本事業の派遣留学生発表による留学シェア会を行います。

・2023年2月28日～3月1日 交流会

2日間にわたり、コミュニティメンバー及び支援企業との交流会を対面にて行います。松江市のenun（縁雲）にて開催予定です。

・2023年3月 オンライン海外研修

3日間にわたり、海外の課題解決に向けた取り組みを行っている団体から、課題解決への取り組み方について、現場の実践例から学びます。



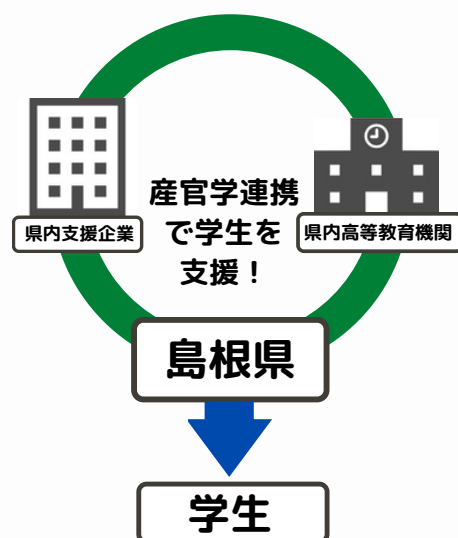
島根県グローバル人材育成支援事業について

目的

本事業は、海外留学と県内企業でのインターンシップ等のコミュニティ活動を組み合わせた地域独自のプログラムを通じて、地域の活性化に貢献し、地域に定着する意欲のあるグローバル人材（グローバル人材）の育成を目的としています。プログラムの企画・運営等は、島根県内の支援企業、経済団体、高等教育機関、地方公共団体により構成される本協議会が主体となって行います。支援企業は、学生に対する奨学金の一部を支援します。
※この事業は、文部科学省の官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～「地域人材コース」として令和3年度まで実施していた事業の島根県版の後継事業です。

構成

支援企業（以下の通り）、島根県商工会議所連合会、島根県商工会連合会、島根県中小企業団体中央会、島根県経営者協会、島根経済同友会、島根大学、島根県立大学、松江工業高等専門学校、島根県



プログラムの対象となる学生

島根県への就職を希望する学生、将来の島根県のリーダーとなり、留学を通じて社会のために貢献したいという強い志をもつ学生。

支援企業の皆様



活動の流れ

県内外の42名の学生が活動中
島根大学、島根県立大学、松江高専、九州大学、龍谷大学（2023.1月現在）

